

# 和歌山市立木本小学校

## 令和5年度全国学力・学習状況調査結果の概要と具体的な取組

### 調査内容

実施日：令和5年4月18日(火) 実施対象：6年生 3学級 88名

全国学力・学習状況調査は、出題範囲を調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、今回は、国語・算数の2教科について、①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など ②知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力など 以上2点について一体的に問う内容です。

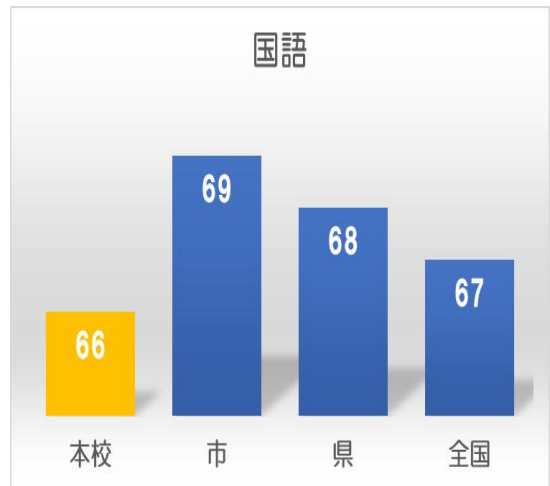
### 教科調査の結果分析より

#### 《国語科の調査結果に見える本校児童の傾向》

平均正答率で、全国平均より1.2ポイント下回る66ポイントの正答率となりました。

以下に、設問毎の正答率で全国平均との乖離が大きい順に整理します。

- 課題①○「送り仮名に気を付けて書き直したものと適切なものを選択する」設問では、3.6ポイント上回りました。
- 課題②△「物事の説明や、自分の考えについて構成を順序立てて書き表す」設問では、7.3ポイント下回りました。
- 課題③△「適切な資料を選択する」設問では、5.8ポイント下回りました。
- 課題④△「特徴の説明として適切なものを選択する」設問では、10.9ポイント下回りました。

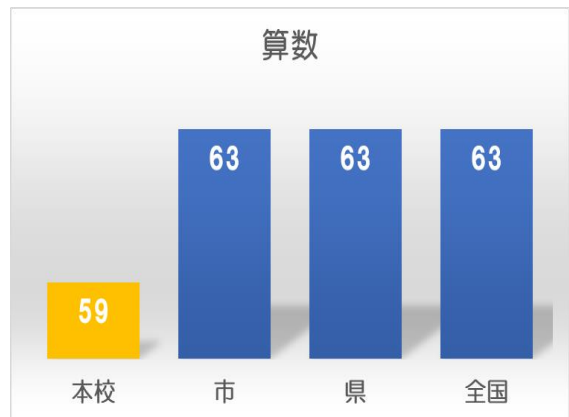


【本校・市・県・全国比較グラフ（国語）】

#### 《算数科の調査結果に見える本校児童の傾向》

平均正答率で、全国平均を3.5ポイント下回る59ポイントの正答率となりました。以下に、設問毎の正答率で全国平均との乖離が大きい順に整理します。

- 課題①○「無回答率では、16問中14問、全国平均を上回ることができ、粘り強く取り組むことができた。
- 課題②△「切って開いた三角形を正三角形にするために、テープを切る時のAの角の大きさを書く」設問では10.6ポイント下回りました。
- 課題③△「示された基準量と比較量から、割合が30%になるものを選ぶ」設問では、6ポイント下回りました。



【正答数分布グラフ（算数）】

\*学力面において、細かい桁における微小な差異は、実質的な違いを示すものではないため、平均正答率については整数値で示しています。

\*上記、「設問毎の正答率で全国平均との乖離」とは、10ポイント上回った場合、全国平均の割合と比べて、本校で7人程、正答した人が多かったこととなります。下回った場合も同様に考え、7人程正答した人が少なかったこととなります。

## 質問紙調査の結果分析より

児童質問紙調査は、児童の学習に対する興味・関心、規範意識・自己有用感、生活習慣・学習習慣の諸側面等に関する調査です。6個の大きな領域について、1. 当てはまる 2. どちらかといえば当てはまる といった肯定的な回答の多さを県基準及び全国基準と比較したところ、概ね県・国の基準と同等の結果となりました。

それぞれの代表的な質問事項の語尾を「～している、思う」の形に変えて（○…よくできている △…頑張してほしい）として、次にまとめます。

- 学校に行くのは楽しいと思う
- 友達関係に満足している
- 困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる
- 読書は好きである
- 将来の夢や目標を持っている
- △今住んでいる地域の行事に参加している
- △家で自分で計画を立てて勉強している
- △毎日同じくらいの時刻に寝ている

※同様に、相互の関連も見つめたい質問事項として、

○5年生までの授業で、自分の考えを発表する機会では自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していた等、学習に関することは大切であると感じられている児童が多いようであった。その反面、△自分と違う意見について考えるのは楽しい や、△授業で学んだことを、他の学習で生かしている とする回答が全国平均と比べて少ない結果となりました。良いところは継承しつつ、学級で学び合うことを楽しみ、学んだことを普段の生活でも意識していけるように取り組んでいきたいと考えます。

家庭での携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方に、「家の人と約束したことを守っている」との回答は、全国平均と同じレベルでしたが、普段（月曜から金曜）、1日当たりのテレビゲーム、携帯電話やスマートフォンでの SNS や動画視聴に「3時間以上費やしている人」が、全国平均と比べて、多くいる結果となりました。是非、ご家庭でも、そうした利用時間を見つめなおす機会を持っていただけたらと考えます。

## 調査結果を受けて、本校が具体的に取り組んでいくこと

今年度の学習状況調査結果は、全国平均と同等の正答率、質問紙調査の回答となりました。この状態を維持、発展するためにも、今後も、以下に示す例年同様の取り組みを丁寧に継承していきたいと考えています。

### 《帯の時間・補充学習の活用》

- ・昼休憩終了後の15分間実施している「のびっこタイム」の時間や放課後学習等を活用して、基礎学力の定着を図っていく。また、全校で読書に取り組み、読書習慣の定着を図っていく。
- ・全校、または学年間で定期的に情報交換を行い、児童の学習の実態に即した内容にしていく。

### 《家庭学習について》

- ・家庭学習の時間については、家庭学習の手引きを参考に、学級の児童の実態を考慮する。
- ・個々により宿題に要する時間に違いが生じてくるので、家庭学習の時間を一定確保するため、自主学习ノートに積極的に取り組む。

### 《授業の中で》

- ・文章の構成を意識しながら読み深めたり、自分の考えを書き表したりする。（苦手な児童に対しては、論じ方の穴埋めを提示し、型を使いながら、慣らしていく。）
- ・同音異義語など、同じ音で読む漢字を集めたり、その意味を辞書で調べたりする活動等を授業の中に取り入れ、習熟を図る。
- ・積極的にグループやペア学習などを取り入れ、子どもたち同士が話し合ったり、教え合ったりする活動を多く取り入れていく。
- ・普段の授業の中でも、漢字や計算などの小テストを行うことにより、児童一人ひとりの習熟度を把握し、個別指導にいかしていく。